

竹島で巡視船発砲さる

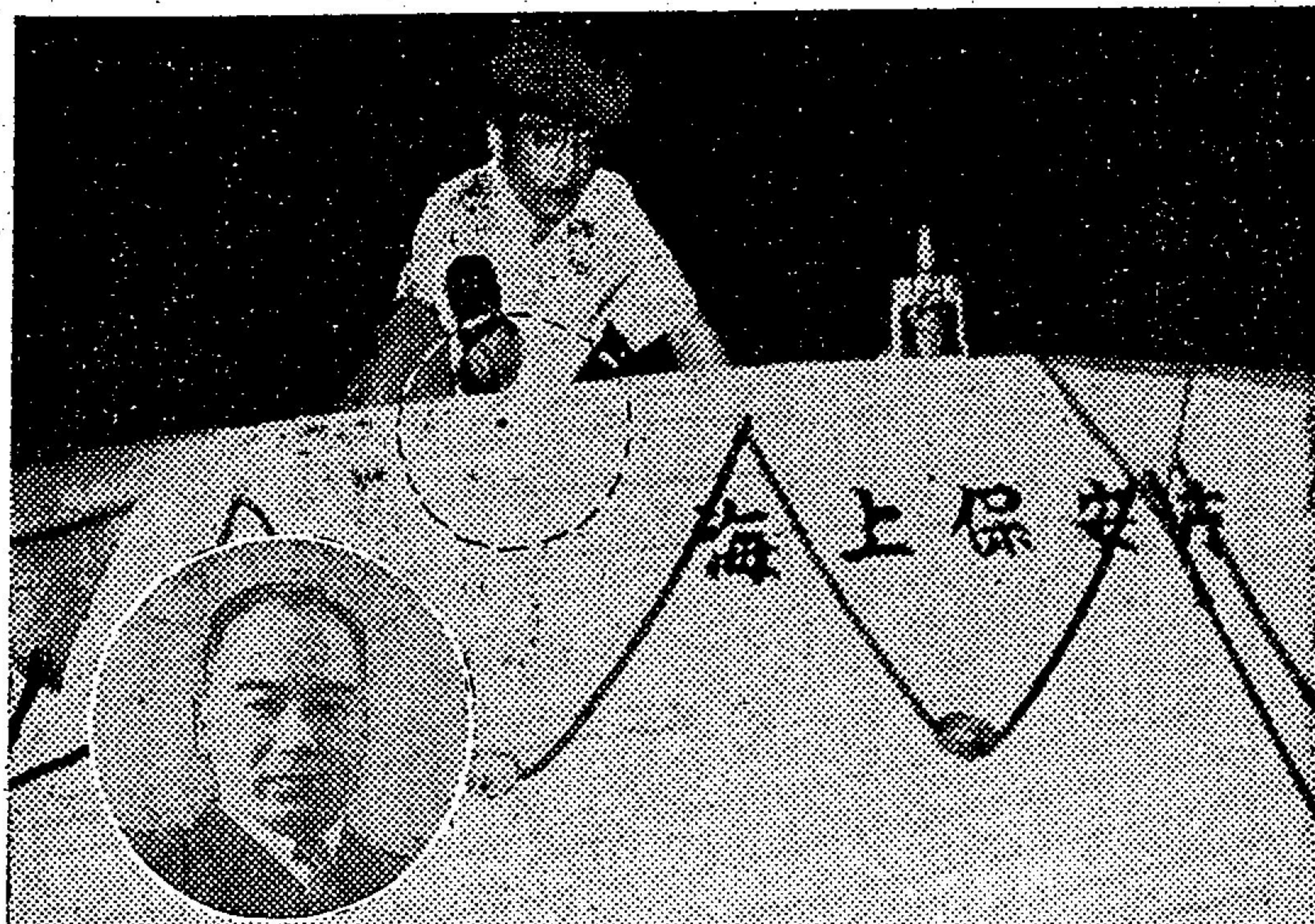
韓国漁船から數十發

境海上保安部の「へくら」

日韓両国が領有を主張して問題になっている日本海の竹島（島根県松江市五箇村）の調査に向った海上保安庁巡視船「へくら」（四五〇ト）から「十二日韓国漁船から発砲を受けた」と十三日海上保安庁に報告があった。

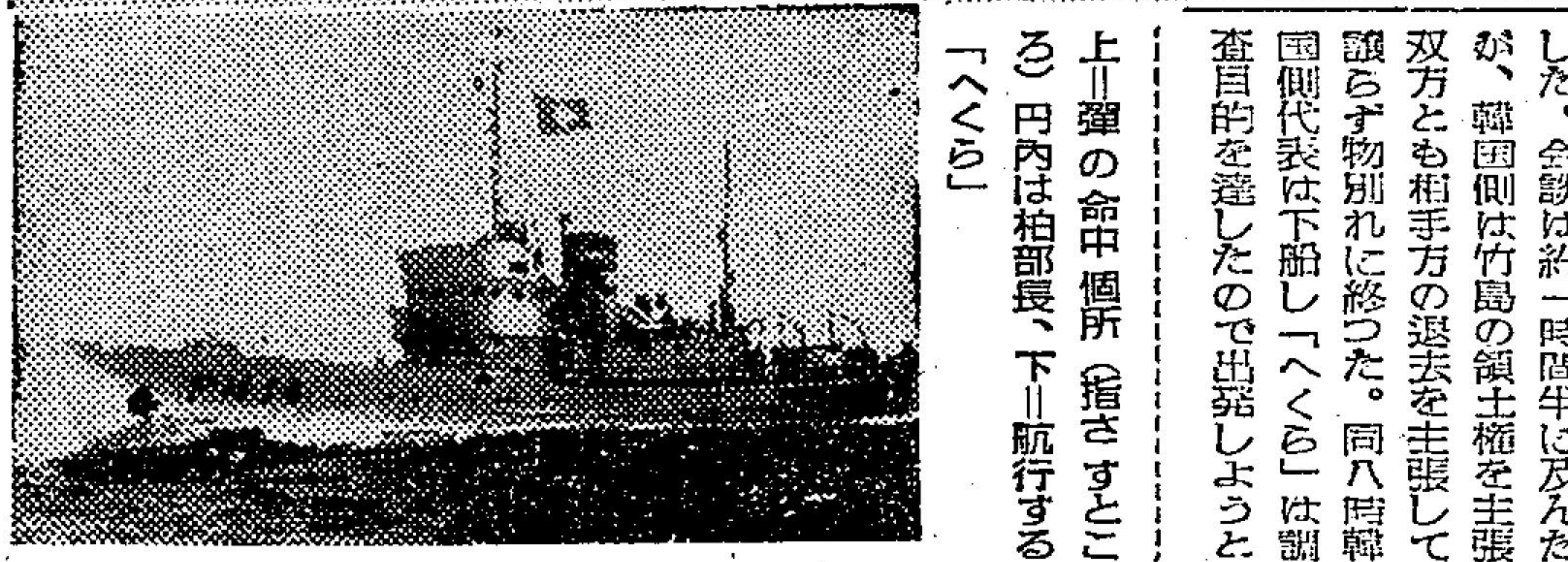
なお第八管区海上保安本部では十三日午後、巡視船「へくら」が竹島で韓国官憲から射撃された当時の状況を次のように発表した。

「へくら」は境海上保安部長柏博次一等保安正が総指揮をとり松浦正二船長以下三十九名が乗組んで十二日午後八時発航し、去月



二十七日巡視船「へくら」が「おき」が日本領土標識をたて韓国漁民六名に退去を命令したその後の実情を調査するため竹島に向い、十二日午前五時半現地に到着し、十二日午後五時半現地に到着し、巡査部長と称する男一名、同中学教師と称する男二名が「へくら」に乗りこみ船長室で柏部長と会見した。会談は約一時間半に及んだが、韓国側は竹島の領土権を主張し、双方とも相手方の退去を主張して譲らず物別れに終わった。同八時韓国側代表は下船し「へくら」は調査目的を達したので出航しようとして

上二弾の命中個所（指さすところ）田内は柏部長、下二航行する「へくら」



したところ後方の西島の小高い地点から数十発の銃音がとどろき、うち一発は「へくら」の船体左後部の網に命中したが、負傷者はなかった。

「へくら」は十二日午後五時半境に帰港したが、竹島に前日調査の時立てた領土標識はなくなっており、付近にいた韓国の漁船にはカービン銃をもった警備員の姿が認められ警備船が警戒中と見られている。

なお「へくら」はきょう午前八時境を出港、一般しよう戒動務について同日夕刻帰港の予定。池端第八管区海上保安本部長は巡視船が無防備のまま危険を冒して韓国が竹島の警備を強化し

ている実情を確認、任務を果し帰港したのは成功で乗組員の沈着さは称賛すべきだ。領土権の帰属問題で日韓両国の紛争の焦点になっている竹島は去月二十七日日本側巡視船が領土標識をたてて帰ったが、去る十日韓国軍当局は「日本

の領土侵害を調査するため砲艦を派遣した」と発表、日本側の領土標識も取除かれたとの情報もあり注目されていた。

海上保安廳三田警備救難監談交際は外務省にまかせてあり当方としてはできるだけ現地でトラブルを避けつゝしよう戒をいつけて行くだけだ。さらに巡視船を同島に派遣する計画は現在のところない。

同島の帰属問題はますます紛糾してきているので、今後同出漁についての動向が注目されるが、これについて重田県水産商工部次長は次のように語った。

発砲事件が事実とすれば出漁してみてもいたずらに紛争を起すだけだから中央で外交上の問題がある程度解決されない限り実際に出漁は無理ではないか。

左舷、ボートに命中

乗組員には死傷者なし

へくら乗組員某船員談 あさ八時ごろ竹島を三〇〇メートル離れたとき突然島の上からピュンピュンと五、六発の小銃弾が飛んできて船の上をかすめた。そのうち一発が左舷の中央より少し後方に、また一発は左舷に沿ったボートに命中したが乗組員には死傷者なかった。なお「へくら」は現在保上庁裏

に横付けされているが、問題の左舷部はほとんど弾が当たったことは判らぬほどだが、ボートに命中した弾は左側をかすめてワイヤーにいくいこんでいる。

出漁、解決まで無理
重田県水産商工部次長
島根県ではさきに竹島出漁を許可したが、韓国漁船の発砲によって

外務省は竹島周辺で韓国漁船が海上保安庁巡視船に発砲した事件を重視、十三日午後海上保安庁係官から事情を聴取した結果、韓国代表部を通じ韓国政府に嚴重抗議を行った。

外務省、嚴重な抗議

領土侵害など責任追及

竹島は歴史的にも明らかに日本領土であるが、韓国はこれを認めず、自国領土であると主張して去る五月二十八日韓国漁民が同島に上陸し、不法漁業を行ったのをはじめ、その後も引續

て同海域で無断採集していた。このため外務省は六月二十六日韓国政府に文書をもって抗議したが、回答がないばかりか去る八日には韓国議会は韓国政府にたいし日本政府の韓国領侵犯に

抗議するよう要求した決議を満場一致で採択、さらに十日には韓国海軍当局が竹島に砲艦を派遣し実情調査させることになつたと発表するなど強い態度を示している。